


2007年9月中間期決算説明会資料

2007年10月24日

ライフサイエンスの好調により過去最高益を更新

 株式会社日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 大林 秀仁

【お問合せ先】

社長室 広報・IRグループ 部長代理 加藤 弘之

TEL : 03-3504-5138 FAX : 03-3504-7123

E-mail : kato-hiroyuki@nst.hitachi-hitec.com

## < 発 表 目 次 >

. 2007年9月 中間期決算概要	3
2007年9月 中間期実績(ハイライト・偏差説明)	4
2007年9月 中間期実績(売上高・営業利益・経常利益・当期利益)	6
財政状態(貸借対照表)	9
財政状態(キャッシュ・フロー)	10
. 2008年3月期 業績予想概要	11
2008年3月期業績予想(ハイライト・偏差説明)	12
2008年3月期業績予想(売上高・営業利益)	14
セグメント別業績予想及び主要事業・設備投資計画説明	16
電子デバイスシステム	16
(半導体製造装置)	17
(液晶関連製造装置)	20
(HDD関連製造装置)	23
ライフサイエンス	26
(バイオ・分析関連事業)	27
(医用関連事業)	28
情報エレクトロニクス	29
先端産業部材	30
設備投資の状況	31
参考: データ集	33
四半期決算の推移	
設備投資額・減価償却費・研究開発費	
主要製品群別売上高の動向	

# . 2007年9月 中間期決算概要

---

## 2007年9月中間期実績(ハイライト)

### 【2007年9月中間期決算実績】

(金額:億円)

	金 額	前年同期比	前回予想比
売上高	4,872	+ 4%	+ 11%
営業利益	233	+ 11%	+ 23%
経常利益	238	+ 7%	+ 27%
当期利益	147	+ 12%	+ 30%

1. 全項目で予想値を上回る
2. 経常利益・当期利益は過去最高益を更新

(注) 前回予想は、2007年4月の決算発表時の見通し

## 2007年9月中間期実績(偏差説明)

### 対前回予想値(2007年4月決算発表時)比較

1. 売上高 (4,370億円                      4,872億円                      + 502億円)

\* 電子デバイスシステムでは、半導体製造装置、液晶関連製造装置(共に商事品)等により150億円増

\* ライフサイエンスでは、欧米向け医用分析装置の好調等により39億円増

\* 情報エレクトロニクスでは、米国向け携帯電話取引の増加等により113億円増

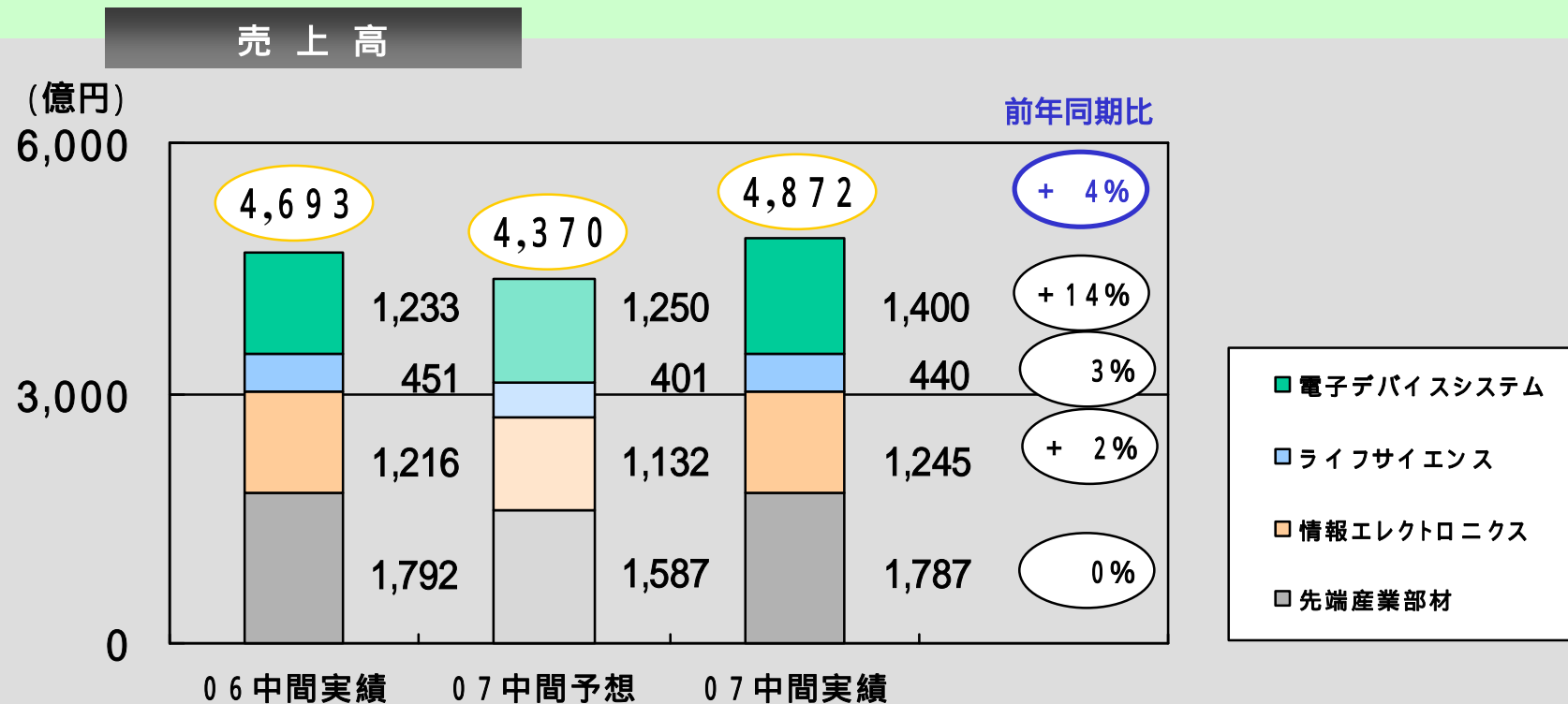
\* 先端産業部材では、プリンタ関連部材や半導体・FPD関連部材の需要増加等により200億円増

2. 営業利益 (189億円                      233億円                      + 44億円)

\* 電子デバイスシステムでは、液晶・HDD関連製造装置は計画を下まわったものの、半導体製造装置では測長SEM(新製品)の貢献等により3億円増

\* ライフサイエンスでは、欧米向け医用分析装置の好調、ユーロ高の影響等により33億円増

# 2007年9月中間期実績(売上高)



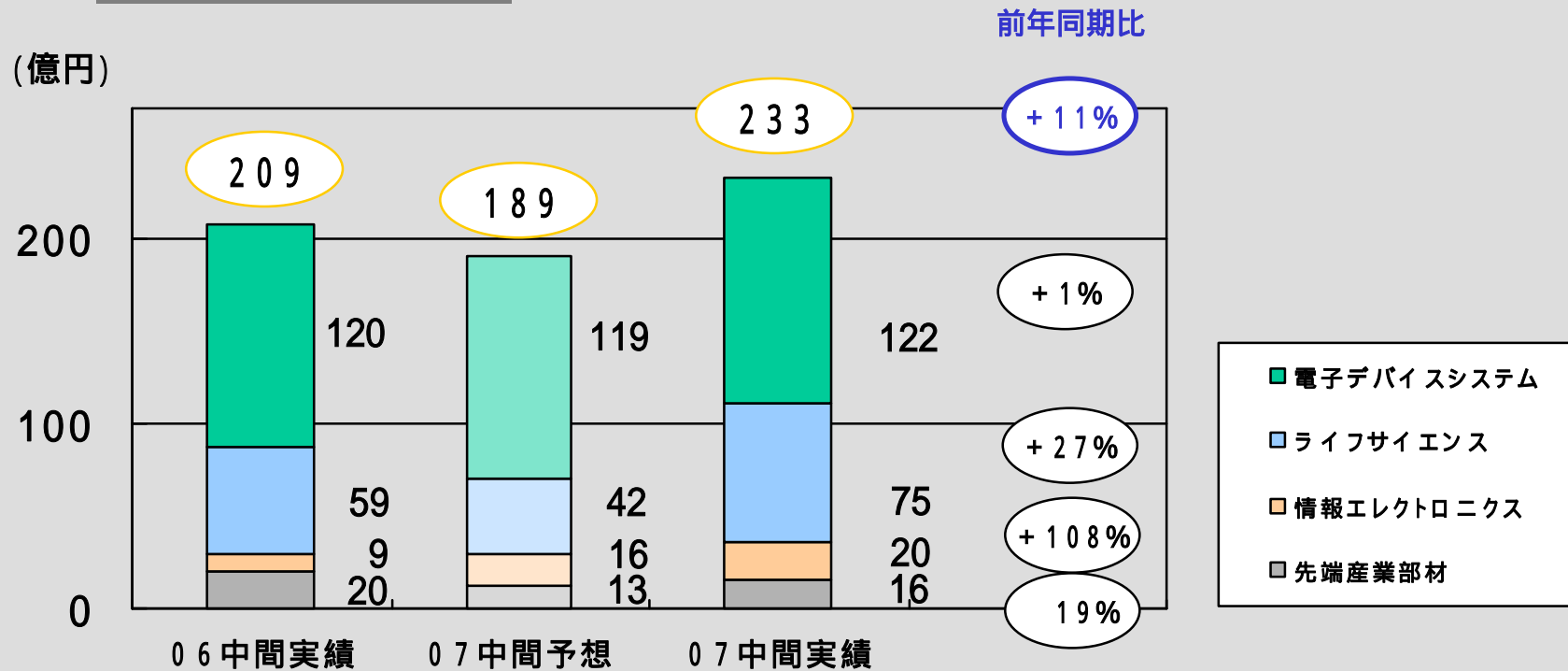
(注) 07中間予想は、2007年4月の決算発表時の見通し

## 【前年同期比 増減説明】

1. 電子デバイスシステム: ASML社製露光装置等商事品の好調等により前年比増
2. ライフサイエンス: バイオ関連商事品の減少等により売上減
3. 情報エレクトロニクス: 半導体デバイスは減少するも、米国向け携帯電話取引は大幅に増加

# 2007年9月中間期実績(営業利益)

## 営業利益



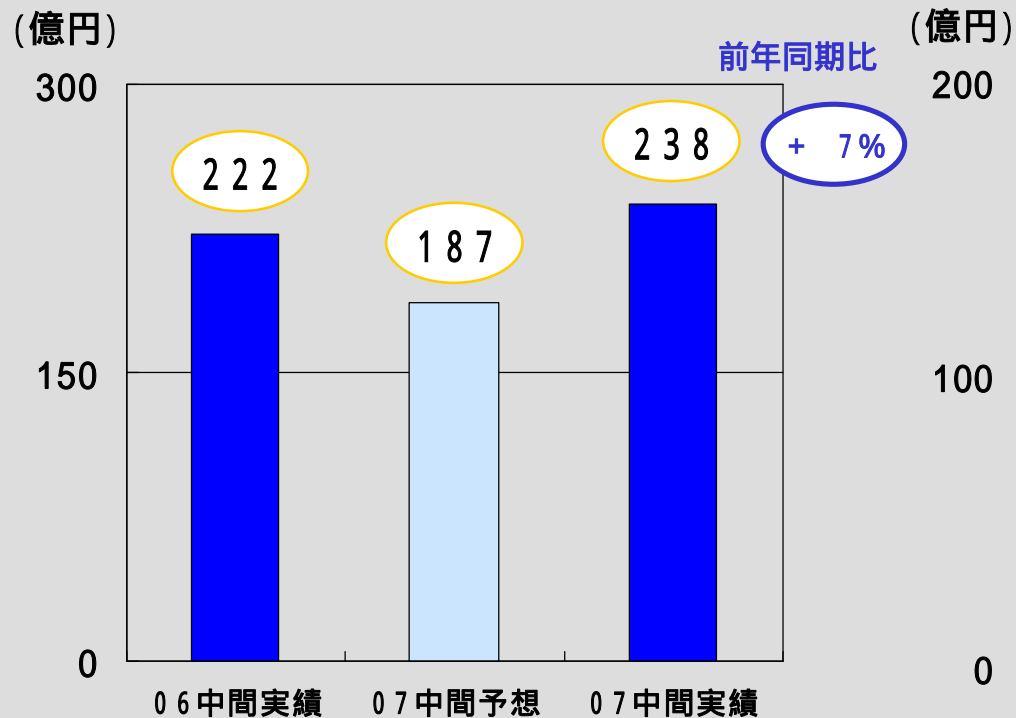
(注) 07中間予想は、2007年4月の決算発表時の見通し

### 【前年同期比 増減説明】

1. ライフサイエンス : 欧米向け医用分析装置の好調持続により増加
2. 情報エレクトロニクス : 携帯電話用半導体デバイス損益の改善等により大幅増

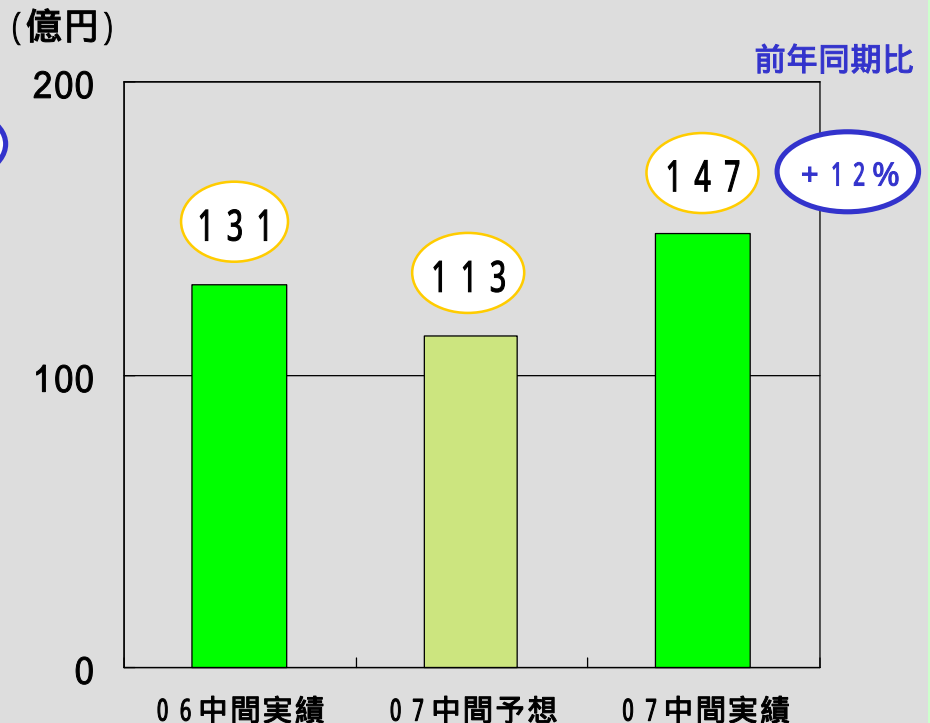
## 2007年9月中間期実績(経常利益・当期利益)

### 経常利益



(注) 07 中間予想は、2007年4月の決算発表時の見通し

### 当期利益



#### 【前年同期比 増減説明(営業外損益・特別損益など)】

1. 営業利益の増加、たな卸資産評価損の減少等により経常利益増
2. 投資有価証券売却益の発生等により当期利益増



# 財政状態(貸借対照表〔要約〕)

< 2007年9月末

(単位:億円) >

07年3月末  
比増減額

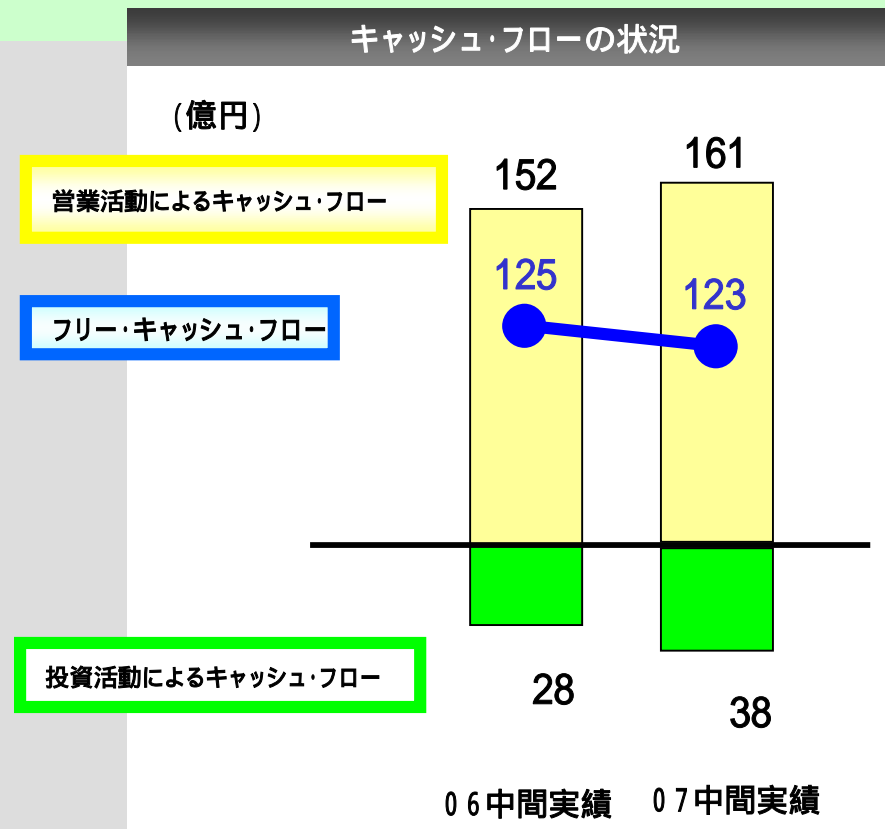
07年3月末  
比増減額

流動資産			3,956	+148	流動負債			2,324	+15
	現預金、関係会社預け金		687	+94		支払手形及び買掛金		1,776	+69
	受取手形及び売掛金		2,366	+22		その他		548	54
	たな卸資産		671	+9	固定負債			271	9
	その他		232	+23		退職給付引当金		259	7
固定資産			969	24		その他		12	2
	有形固定資産		576	+5	純資産			2,330	+117
	無形固定資産		35	3		株主資本		2,218	+130
	投資その他の資産		359	27		評価・換算差額等		63	12
						少数株主持分		50	1
資産合計			4,925	+123	負債・純資産合計			4,925	+123

( )内は対07年3月末比

1. 自己資本比率 : 46.3% (+1.3%)
2. 一株当たり純資産 : 1,657円98銭 (+85円84銭)

# 財政状態(キャッシュ・フロー)



## 営業活動によるキャッシュ・フロー(07中間実績)

1. 税引前利益	241億円
2. 減価償却費	42億円
3. 運転資金	24億円
4. 法人税等支払	122億円 他

## 投資活動によるキャッシュ・フロー(07中間実績)

1. 有価証券取得・売却	9億円
2. 固定資産取得・売却	47億円 他

## 【2007年9月末 ポイント説明】

- 現金及び現金同等物残高 : 695億円 (07年3月末比+102億円)
- 有形固定資産の取得による支出 : 埼玉事業所クリーンルーム 19億円  
チップマウンタ工場土地 8億円他

# . 2008年3月期 業績予想概要

---

## 2008年3月期業績予想(ハイライト)

### 【2008年3月期業績予想】

(金額:億円)

	金 額	前年度比	前回予想比
売 上 高	9,400	1%	+ 3%
営業利益	430	5%	+ 2%
経常利益	422	5%	+ 3%
当期利益	256	2%	+ 2%
F I V	137	15%	+ 5%
R O E	11.2%	1.6%	0.1%

(注) 前回予想は、2007年4月の決算発表時の見通し

## 2008年3月期業績予想(偏差説明)

### 対前回予想値(2007年4月決算発表時)比較

1. 売上高 ( 9,100億円                      9,400億円                      + 300億円)

\* 電子デバイスシステムでは、半導体製造装置、液晶関連製造装置(共に商事品)等により25億円増

\* ライフサイエンスでは、欧米向け医用分析装置の好調等により68億円増

\* 情報エレクトロニクスでは、携帯電話用LCD関連部品の販売好調等により27億円増

\* 先端産業部材では、プリンタ関連部材や半導体・FPD関連部材の需要増等により180億円増

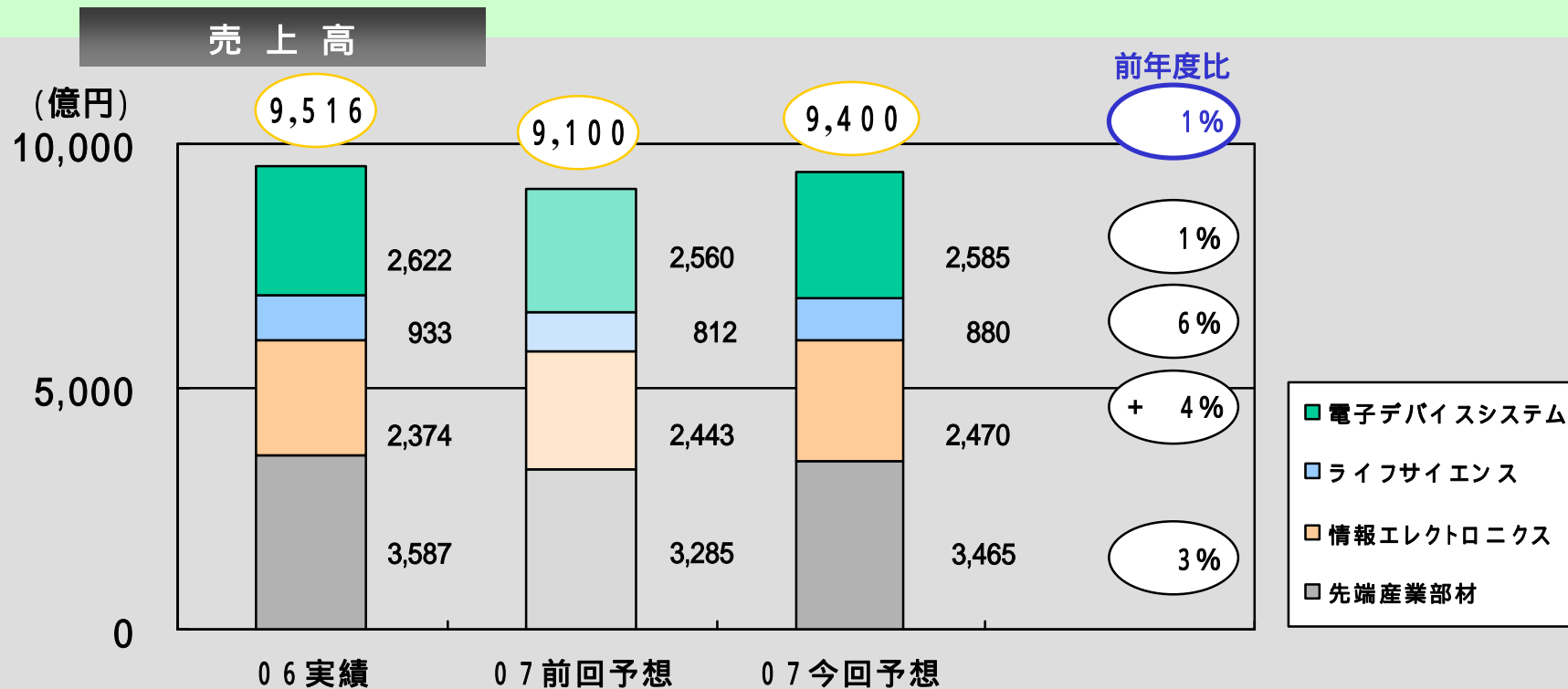
2. 営業利益 ( 420億円                      430億円                      + 10億円)

\* 電子デバイスシステムでは、液晶・HDD関連製造装置の売上減等により48億円減

\* ライフサイエンスでは、欧米向け医用分析装置の好調等により55億円増

\* 先端産業部材では、プリンタ関連部材の売上増加等により4億円増

# 2008年3月期業績予想(売上高)



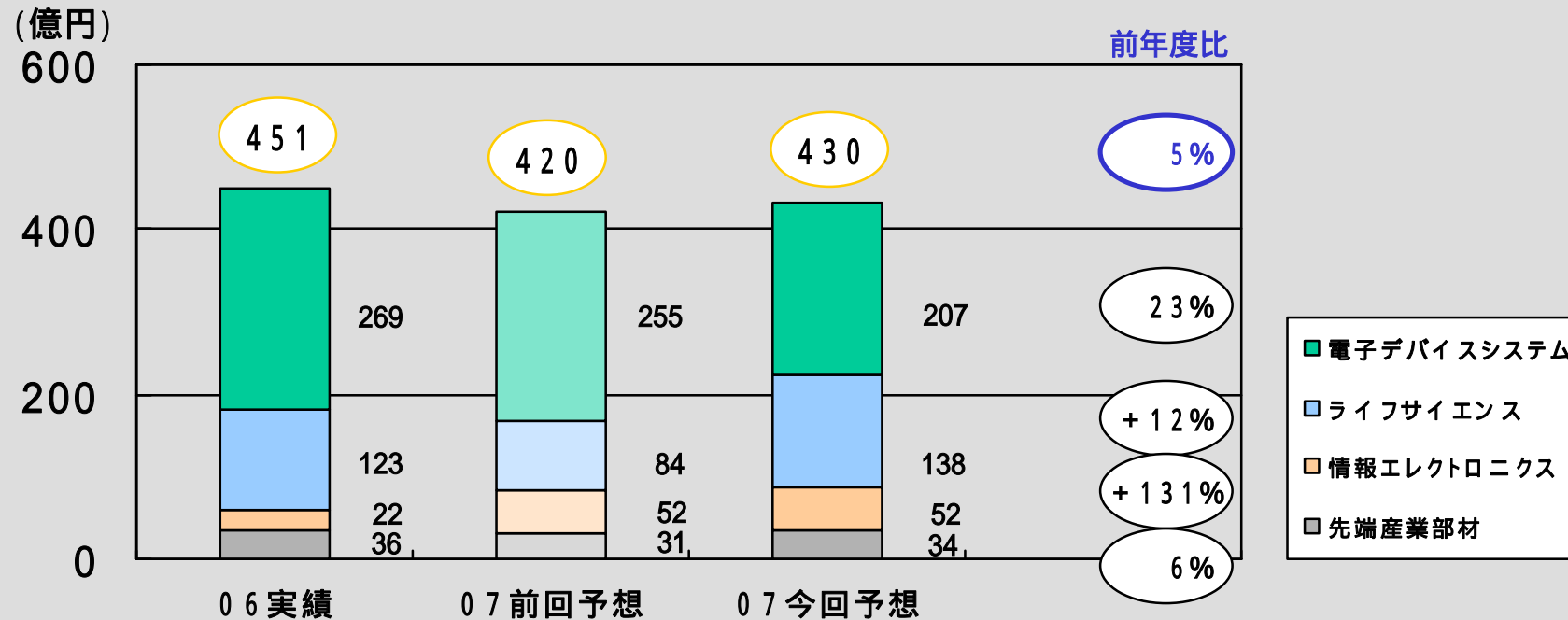
(注) 前回予想は、2007年4月の決算発表時の見通し

## 【前年度比 増減説明】

1. 電子デバイスシステム： 評価・解析装置等半導体製造装置は増加するも、液晶・HDD関連製造装置の減少により前年度比減
2. ライフサイエンス： バイオ関連商事品の取扱見直し等により前年度比減
3. 情報エレクトロニクス： チップマウンタ(新製品)の販売好調等により前年度比増
4. 先端産業部材： 機能部品の取扱減少等により前年度比減

# 2008年3月期業績予想(営業利益)

## 営業利益



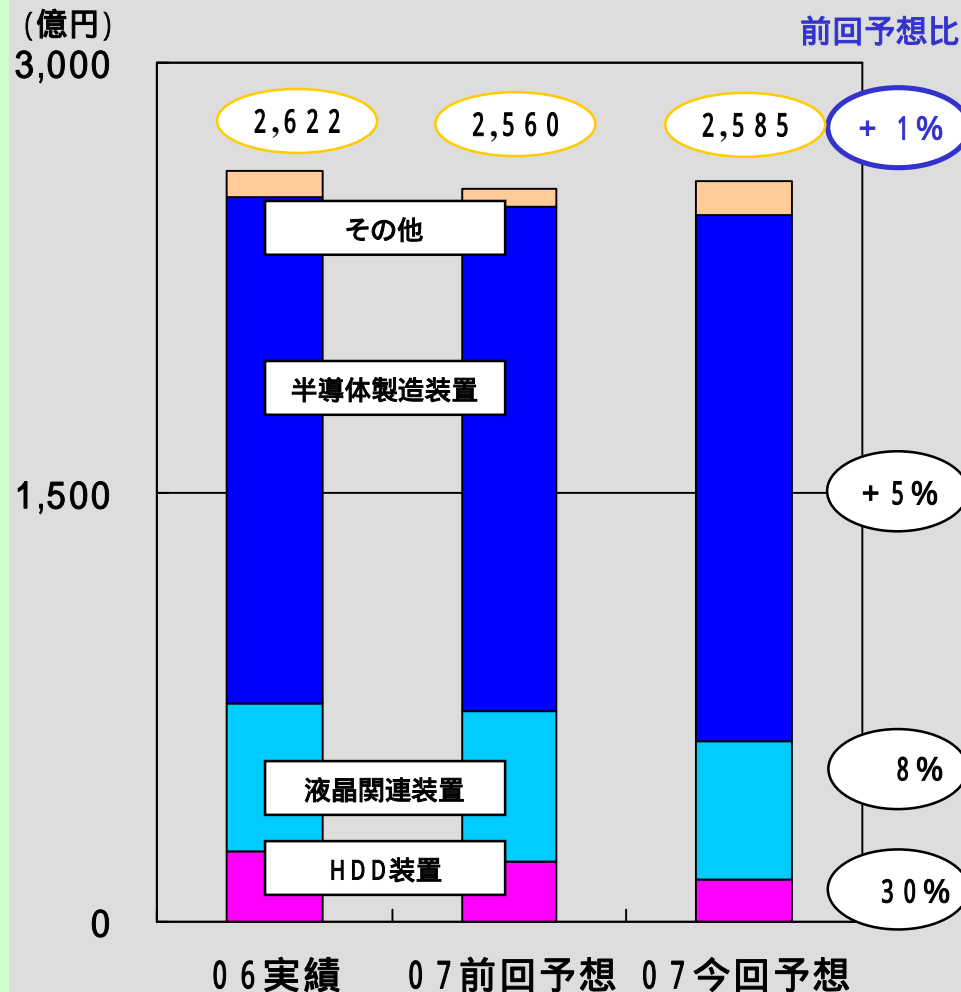
(注) 前回予想は、2007年4月の決算発表時の見通し

### 【前年度比 増減説明】

1. 電子デバイスシステム: 液晶・HDD関連製造装置の不振により減少
2. ライフサイエンス: 欧米向け医用分析装置の好調により増加
3. 情報エレクトロニクス: チップマウンタ売上増による収益性向上等により増加

# セグメント別業績予想(電子デバイスシステム)

売上高



(注) 前回予想は、2007年4月の決算発表時の見通し

## 【対前回予想比 増減説明】

### 半導体製造装置

- ・ASML社製露光装置：  
最先端露光装置への引き合い強く大幅増
- ・測長SEM：  
新製品及び新規顧客獲得効果等により増加
- ・ウェーハ検査関連装置：  
アジア顧客の投資延期等により予想比減も、  
前年度比では大幅増
- ・後工程(ダイボンダ)：  
メモリー向け投資増加等により大幅増

### 液晶関連製造装置

- ・露光装置 / ウェットプロセス装置：  
前工程向け投資の予想以上の削減で大幅減
- ・モジュール組立装置：  
TV・モニター向け大型パネル生産好調により  
微増

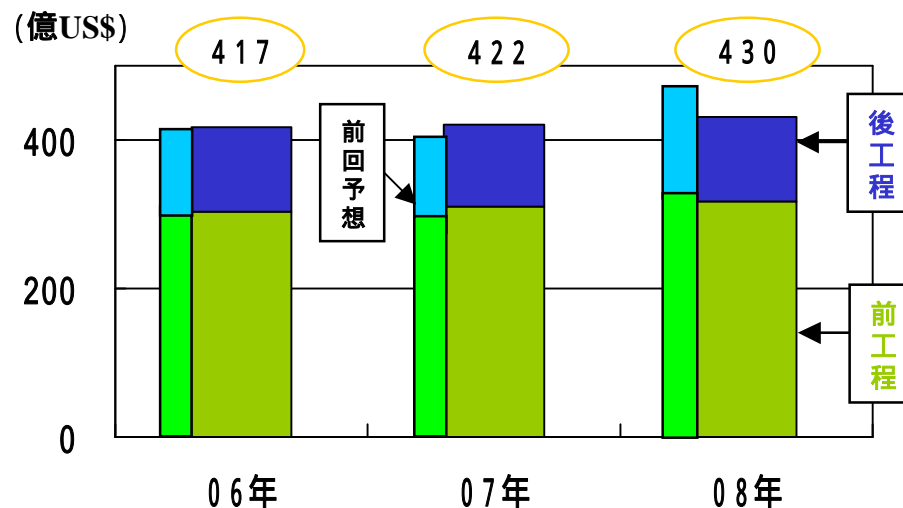
### HDD関連製造装置

- ・ディスク / ヘッド検査装置：  
垂直磁気記録方式への急速な移行に伴う  
ディスクの生産枚数減等により大幅減



# 市場動向(半導体製造装置)

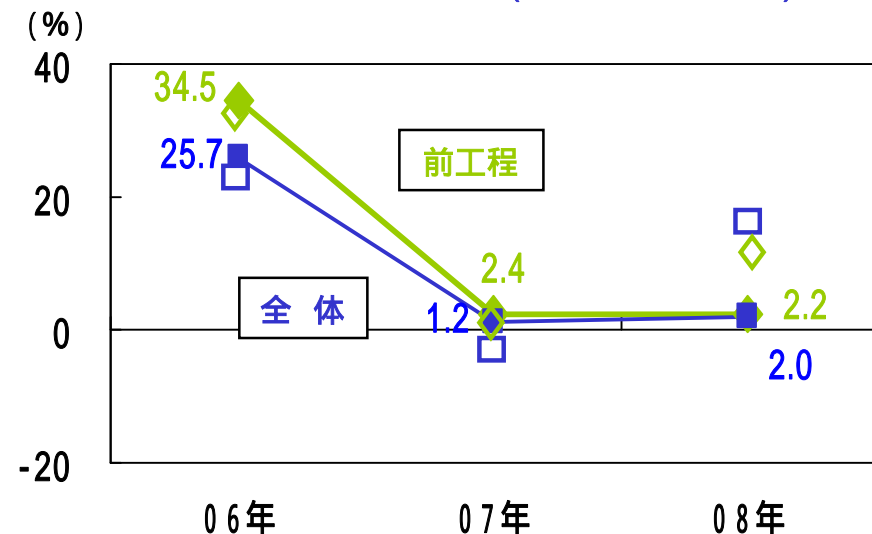
【半導体製造装置市場】(売上ベース)



(出所) SEMIの2007年8月迄の実績値及び当社推測

(注) 前回予想は、2007年4月の07年3月決算発表時の見通し

【半導体製造装置市場(前年比伸び率)】



< 前回予想 >		06年	07年	08年
□ (全体)	:	24.8%	2.2%	16.3%
◇ (前工程)	:	32.7%	0.6%	10.1%

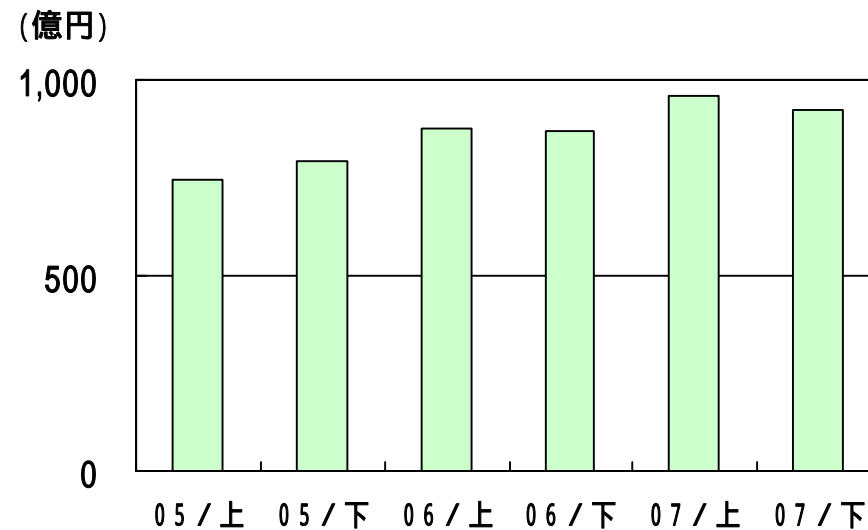
## 【状況説明】

- ・07年度の半導体製造装置市場は、06年度と同様に、DRAM、NANDフラッシュ等メモリー向けに大型投資が継続しており、前回予想(全体 2.2%)に対し、若干のプラス成長を予想  
大手半導体顧客にて、年初発表した設備投資金額に対し 増額あり(08年度分の前倒し)
- ・08年度は、北京オリンピック(8月)、米国大統領選挙(11月)による半導体需要喚起に加え、07年8月からのDRAM価格下落によるパソコンへのDRAM搭載容量の拡大(\*)等が装置市場へポジティブに作用すると期待される。一方、メモリー向け設備投資が一段落することも考えられ、市場伸び率は、2%程度(全体)を見込む

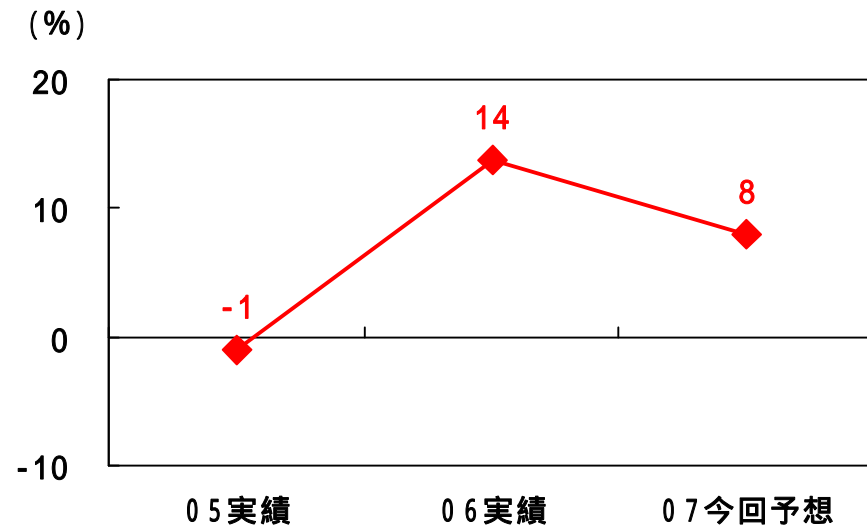
(\*) 高機能機種: 1GB 2GB/台、廉価機種: 512MB 1GB

## 受注高の推移(半導体製造装置)

【受注高の推移】



【受注高の推移(前年度比伸び率)】

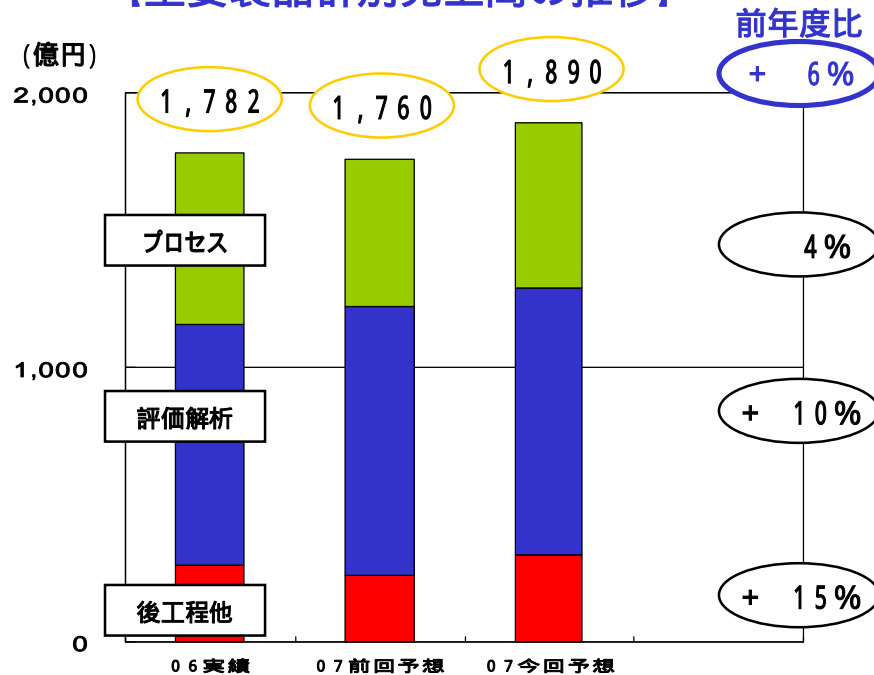


### 【状況説明】

- ・07 / 上: ASML社製露光装置、測長SEM、ダイボンダ等の好調により、前年同期比9%アップ
- ・07 / 下: アジア大手顧客を中心に、測長SEM、外観検査装置等の引き合いが活発化、前年同期比6%アップを予想
- ・07年度: ASML社製露光装置、測長SEM、外観検査装置等の新製品効果等により、前年度比+8%を予想

# 売上高の推移(半導体製造装置)

## 【主要製品群別売上高の推移】



## 【主要製品群別売上高の状況と今後の取り組み】

### プロセス装置

- ・エッチング装置: 米大手顧客の投資削減の影響が懸念されるも、アジア大手顧客からの新規受注に成功、他の大手顧客深耕を推進し、さらなる売上増を目指す
- ・ASML社製露光装置: 納入後サポートを含むトータル製品競合力向上により、実績の積上げを図る

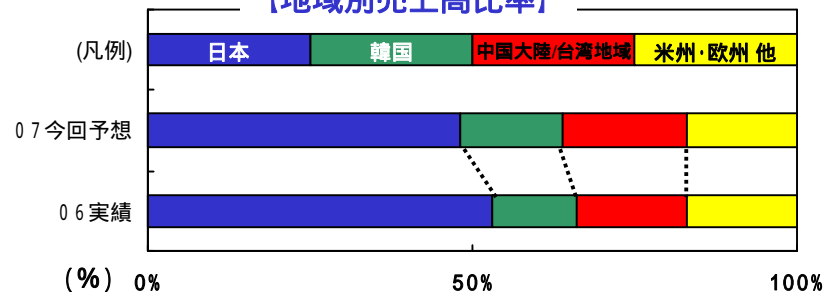
### 評価・解析装置

- ・測長SEM: 新型測長SEMの投入と次世代リソグラフィ評価システム等の技術により競争力強化
- ・外観検査装置: 暗視野検査装置は大手デバイスメーカーに加え、ウェハメーカーへの拡販に成功、レビューSEMは新型高性能機を投入。大手顧客とのアプリケーション技術の共同開発により実績を拡大
- ・解析装置: 微細半導体デバイス信頼性向上に不可欠な解析装置ニーズに応えるべく、STEM、新型FE-SEM等の新製品で積極拡販

### 後工程装置(ダイボンダ)

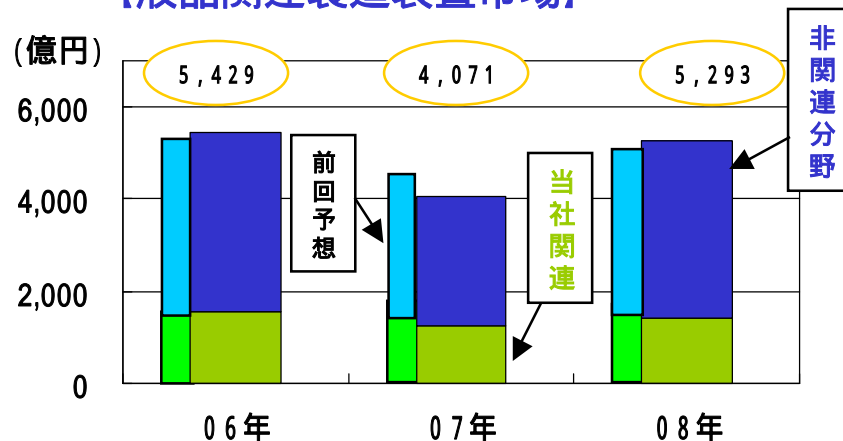
- ・メモリー組立市場でのシェアアップのための戦略的パートナーシップを強化
- ・活発化が予想されるアジア市場向け営業を強化

## 【地域別売上高比率】



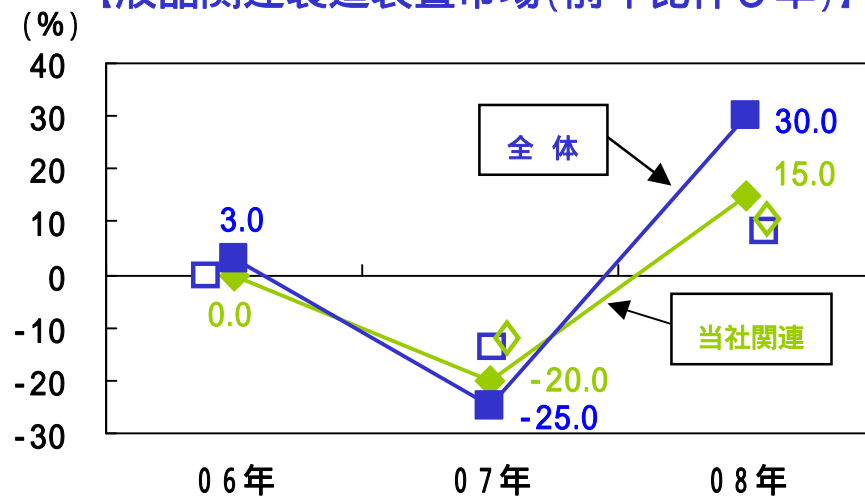
# 市場動向(液晶関連製造装置)

【液晶関連製造装置市場】



(出所)SEAJ(2007年7月)データに基づき当社にて推定  
(注)前回予想は、2007年4月の決算発表時の見通し

【液晶関連製造装置市場(前年比伸び率)】



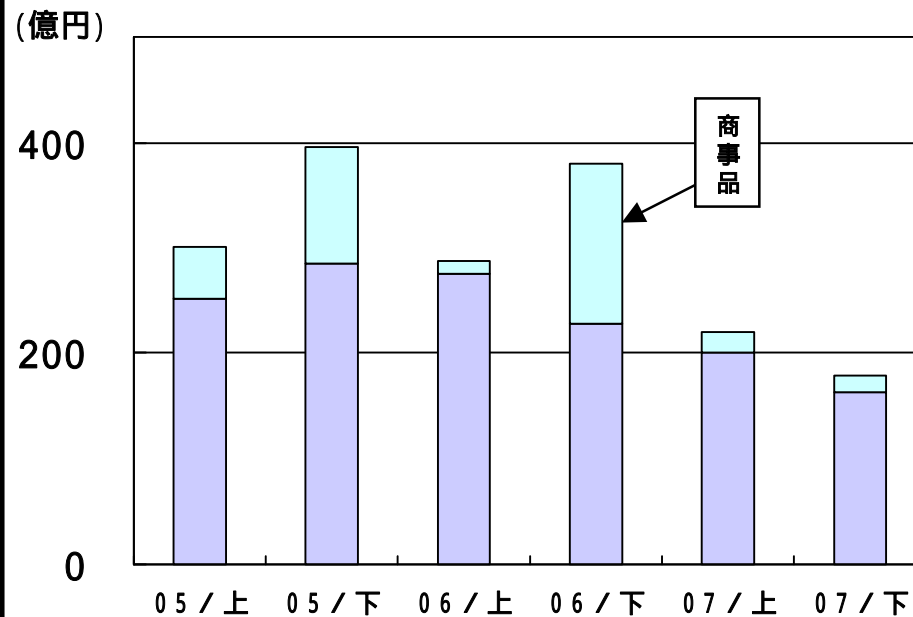
< 前回予想 >		06年	07年	08年
□ (全体)	:	0.0%	15.0%	11.0%
◇ (当社関連)	:	0.0%	14.0%	12.0%

## 【状況説明】

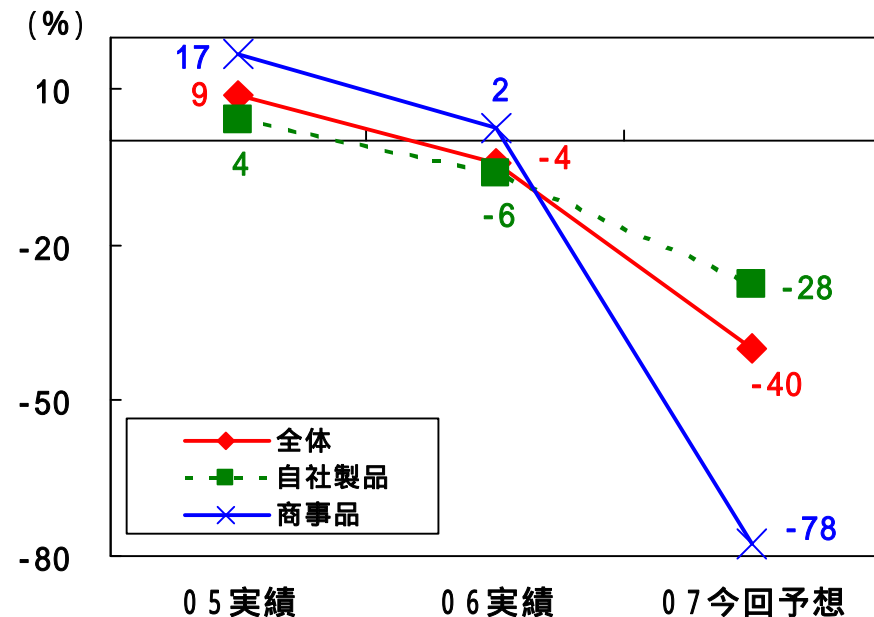
- ・07年度の前工程投資計画は、パネルメーカーの過剰設備と急激な価格低下により韓国・台湾を中心に延期・縮小されるが、08年には投資が再開され、製造装置市場は2桁増となる見込み
- ・一部のメーカーは次世代ラインの新設・増設を進めているものの、07年度の液晶関連製造装置市場は、対前年比 25%と予想以上に悪化(当初予想 15%)
- ・後工程は消費地近傍での生産の動きが加速し、中国大陆だけでなく欧州、中米等グローバル化が進展

# 受注高の推移(液晶関連製造装置)

【受注高の推移】



【受注高の推移(前年度比伸び率)】



## 【状況説明】

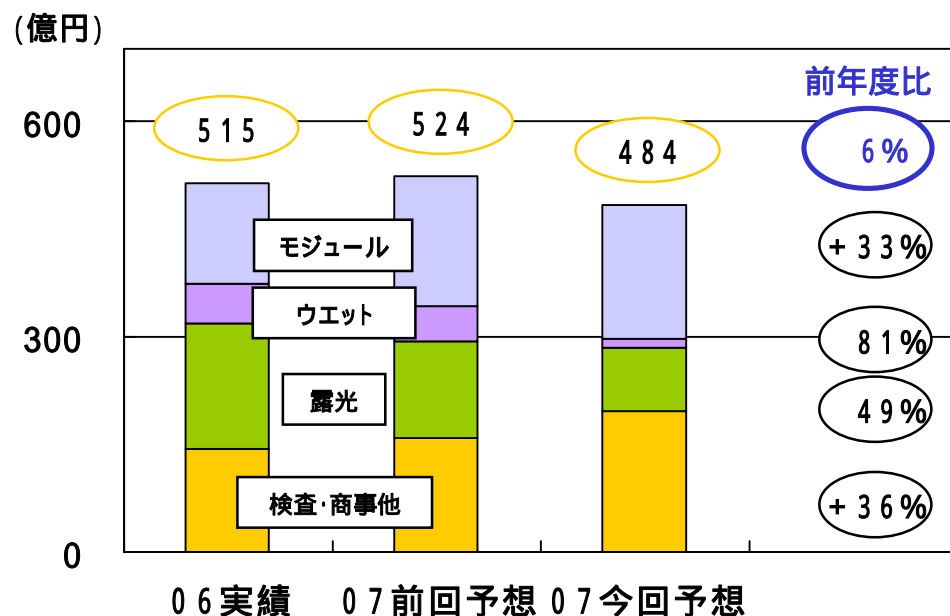
- ・07 / 上:後工程の実装装置は好調であるが、前工程の露光装置が大幅減で前年同期比 23%
- ・07 / 下:前工程装置及び商事品が大幅減で前年同期比 53%を予想
- ・07年度:前年度比は、上記により 40%を予想

自社製品は、後工程増加するが前工程投資削減により 28%

商事品は、顧客計画前倒しに伴う大口受注計上により、前年度比 78%を予想(スポット要因)

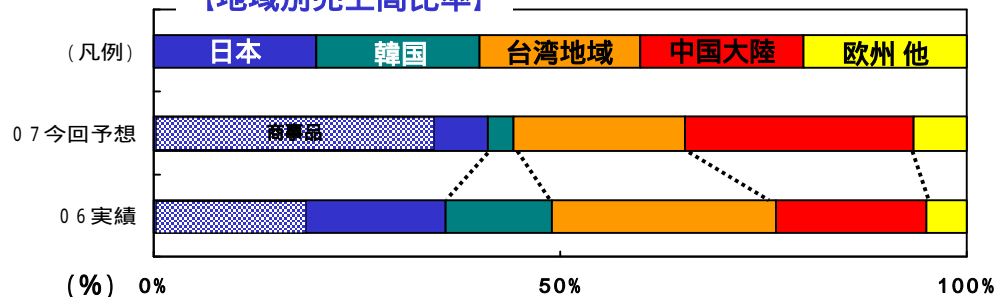
# 売上高の推移(液晶関連製造装置)

【主要製品群別地域別売上高の推移】



(注)前回予想は、2007年4月の決算発表時の見通し

【地域別売上高比率】



【主要製品群別売上高状況と今後の取組み】

## 組立・モジュール装置

- ・TV、モニター需要増により市場拡大
- ・モジュール製品の性能向上、後工程のW-W展開に対応するグローバルな営業及びサービス体制の確立

## ウェットプロセス装置

- ・台湾・韓国メーカーの台頭により厳しい状況
- ・露光装置とのシステム販売を強化 / 受注案件の選択と集中

## 露光装置

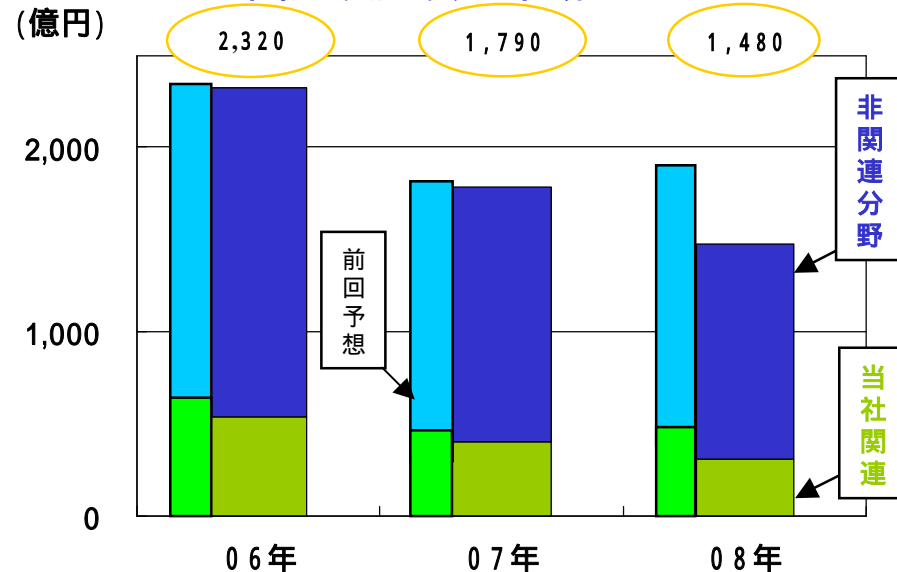
- ・08年度前半からの前工程投資案件の受注確保
- ・タクトUP等、性能向上および生産体制強化による競争力向上
- ・G10対応装置およびマスクレス露光装置等の開発・早期戦力化

## 検査装置・商事品他

- ・G10対応装置の取り組み(搬送・ディスペンサ)

# 市場動向(HDD関連製造装置)

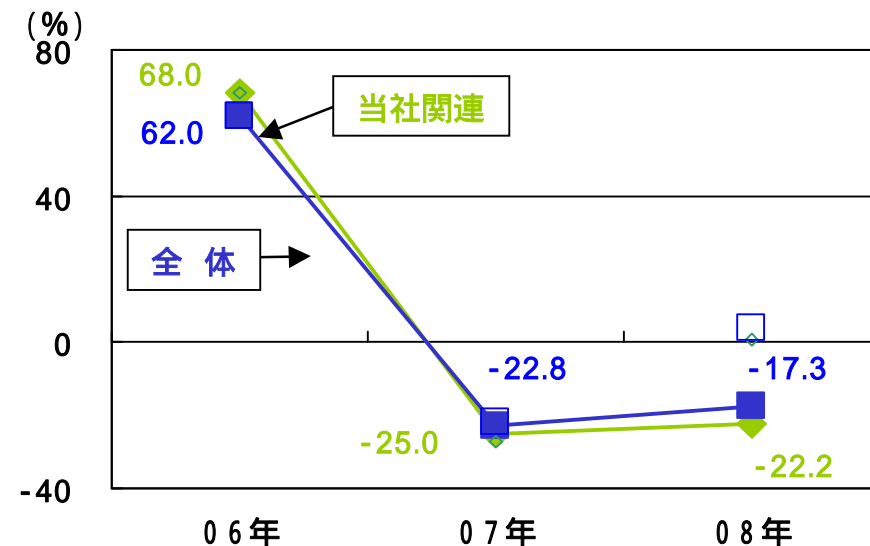
【HDD関連製造装置市場】



(出所)IDEMAデータに基づき当社にて予測

(注)前回予想は、2007年4月の07年3月期決算発表時の見通し

【HDD関連製造装置市場(前年比伸び率)】



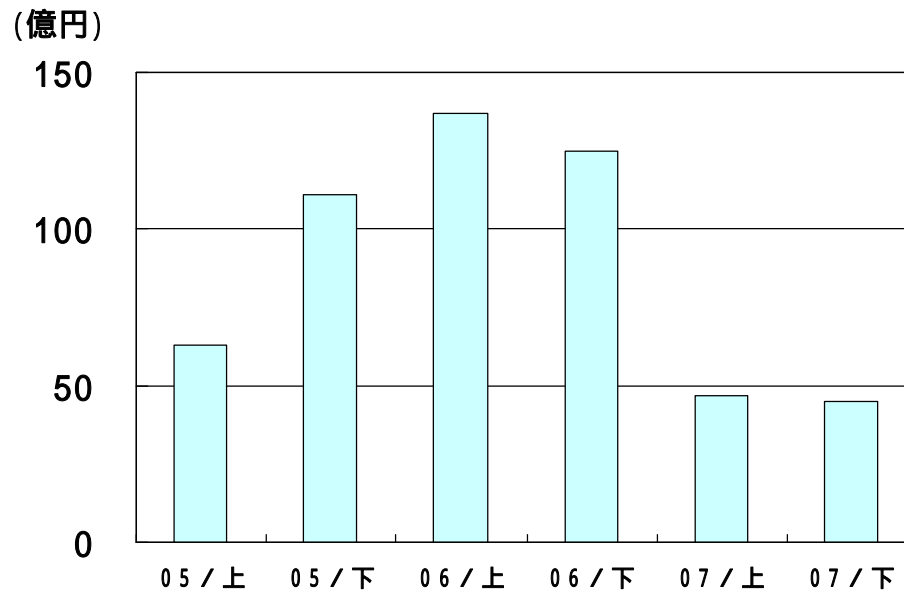
< 前回予想 >		06年	07年	08年
□	(全体)	62.0%	22.0%	3.8%
◇	(当社関連)	68.0%	27.0%	0.6%

## 【状況説明】

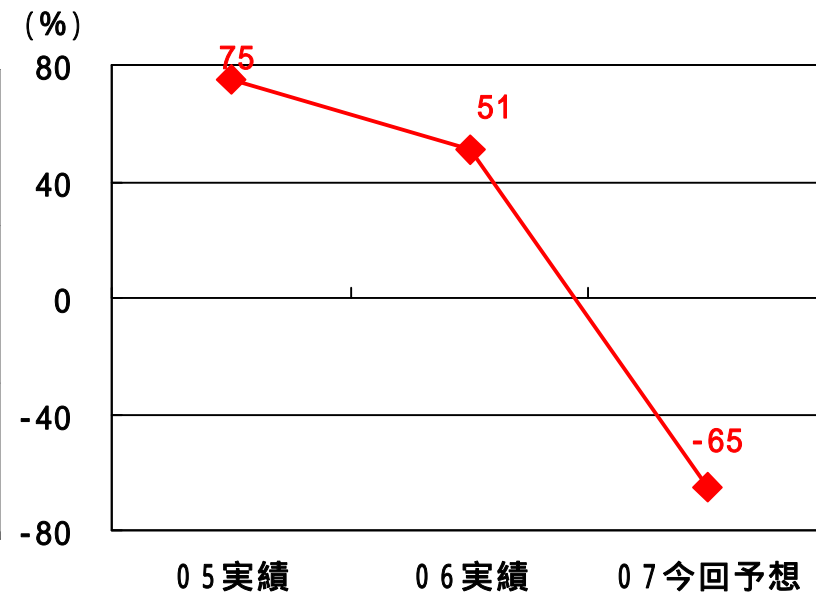
- ・07年設備市場は、前年の大型投資のほか、垂直磁気記録方式への予想以上のシフトによる設備過剰感が広がり、設備投資に対しては慎重な状況が続く
- ・PC、デジタル家電の伸びに支えられ、需給バランスが改善される08年後半から緩やかな設備投資増が見込まれる
- ・08年に投資が見込まれるヘッド、サブストレート関連設備市場に関して、当社の主力製品である検査装置は、全体市場 17%を下回る 22%を予想

## 受注高の推移(HDD関連製造装置)

【受注高の推移】



【受注高の推移(前年度比伸び率)】



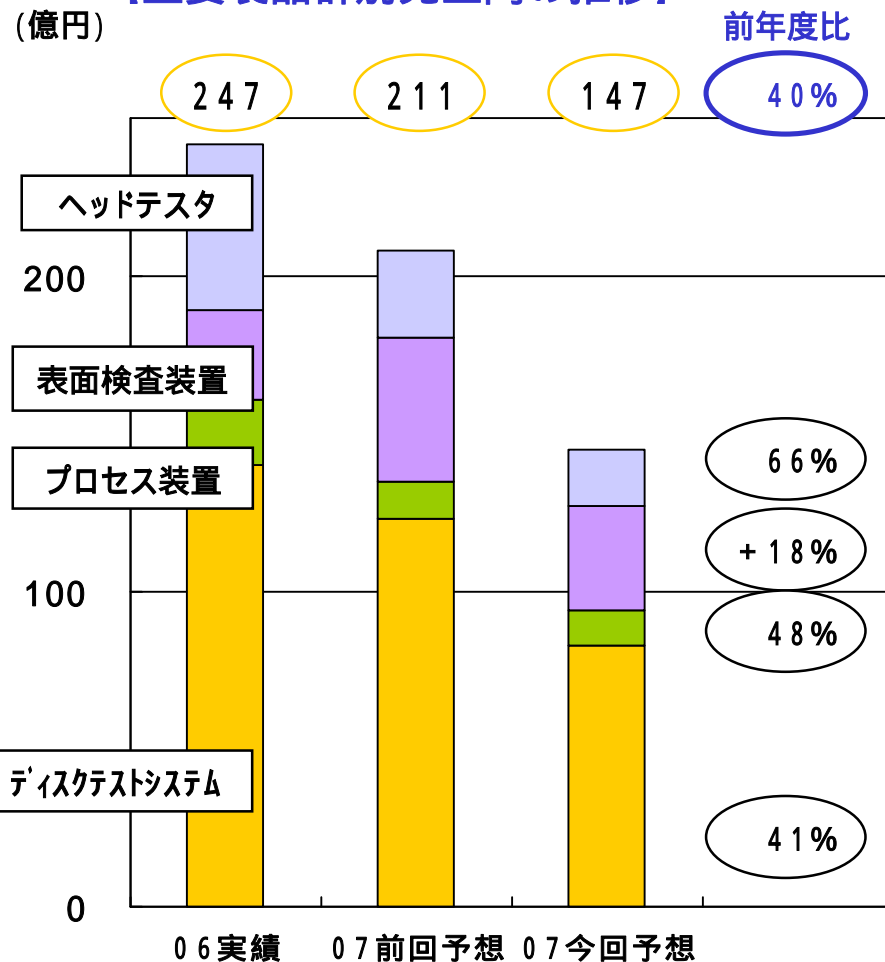
### 【状況説明】

- ・07 / 上: ディスク、サブストレート、ヘッドについては当社顧客の投資抑制により前年同期比 66%
- ・07 / 下: 引き続き設備投資の抑制は続き、前年同期比 64%
- ・07年度: リプレイス投資やR&D設備投資は見込まれるものの、前年度の大型設備投資による設備過剰が続く見通しで、国内ディスク専門メーカーを中心に設備投資に慎重となり、前回予測 21%  
今回予測 65%と大幅受注減を予想



# 売上高の推移(HDD関連製造装置)

【主要製品群別売上高の推移】



【主要製品群別売上高状況と今後の取組み】

## ヘッドテスト

- ・主要顧客の投資抑制により厳しい状況
- ・新製品投入による新規顧客開拓

## 表面検査装置

- ・垂直磁気記録方式への移行に伴う高密度化の進展需要伸長
- ・競合メーカーとの差別化製品(高感度化等)によるシェアの拡大

## プロセス装置

- ・垂直磁気記録方式への移行に伴い、サブストレートやスパッタリング工程で高機能機種への需要高まる

## ディスクテストシステム

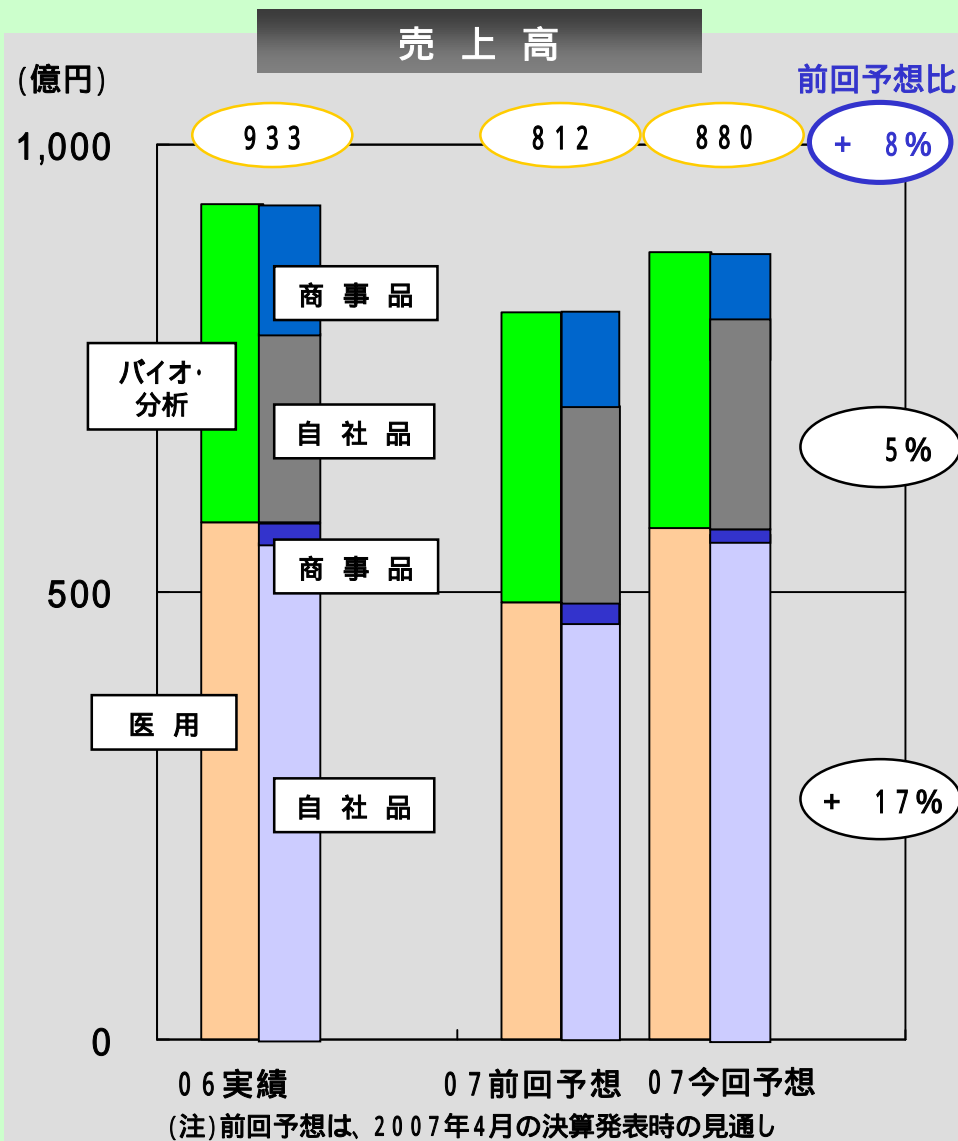
- ・ディスク製造への投資は厳しい状況続く
- ・新規顧客開拓によるシェア拡大
- ・光学式検査方式の新製品の投入

## < 重点施策 >

- ・新技術(DTM/BPM)対応装置の開発
- ・グローバルな営業及びサービス体制の確立

DTM:Discrete Track Media BPM:Bit Patterned Media

# セグメント別業績予想(ライフサイエンス)



## 【対前回予想比 増減説明】

### バイオ・分析関連事業

#### ・液体クロマトグラフ

超高速システムを市場投入するも、競争激化により横ばい

#### ・DNAシーケンサ

遺伝子鑑定・食品等 応用分野の深耕により計画水準を維持

#### ・商事品

自社製品との相乗効果を上げるため、取扱製品の戦略的見直しを加速したため減少

### 医用関連事業

#### ・生化学・免疫分析装置

06年の新製品投入の反動減を予想していたが、欧米市場での販売好調継続により大幅増加

## 主要事業別状況(バイオ・分析関連事業)

### 【バイオ・分析関連事業 今後の取り組み】

1. 超高速液体クロマトグラフ
  - ・海外市場への本格投入による販売立上げ
2. 液体クロマトグラフ質量分析計
  - ・診断マーカー市場向けへの展開
  - ・米国ダラスにデモラボ開設
3. 光度計
  - ・新中型分光光度計の市場投入
4. 中国生産体制強化(大連那珂儀器)
  - ・従来の液体クロマトグラフに加え、  
小型分光光度計の生産開始
  - ・汎用分析装置のコスト競争力向上



日立超高速液体クロマトグラフ LaChromUltra



日立新型分光光度計



大連那珂儀器有限公司

## 主要事業別状況(医用関連事業)

### 【欧米向け生化学・免疫分析装置好調要因】

- ・新中型生化学・免疫分析装置の販売好調  
モジュラーコンセプトの好評
- ・生化学・免疫分析の統合タイプ
- ・顧客の必要とする処理能力に合わせた  
最適システムの提供  
検体・試薬の扱い易さの向上



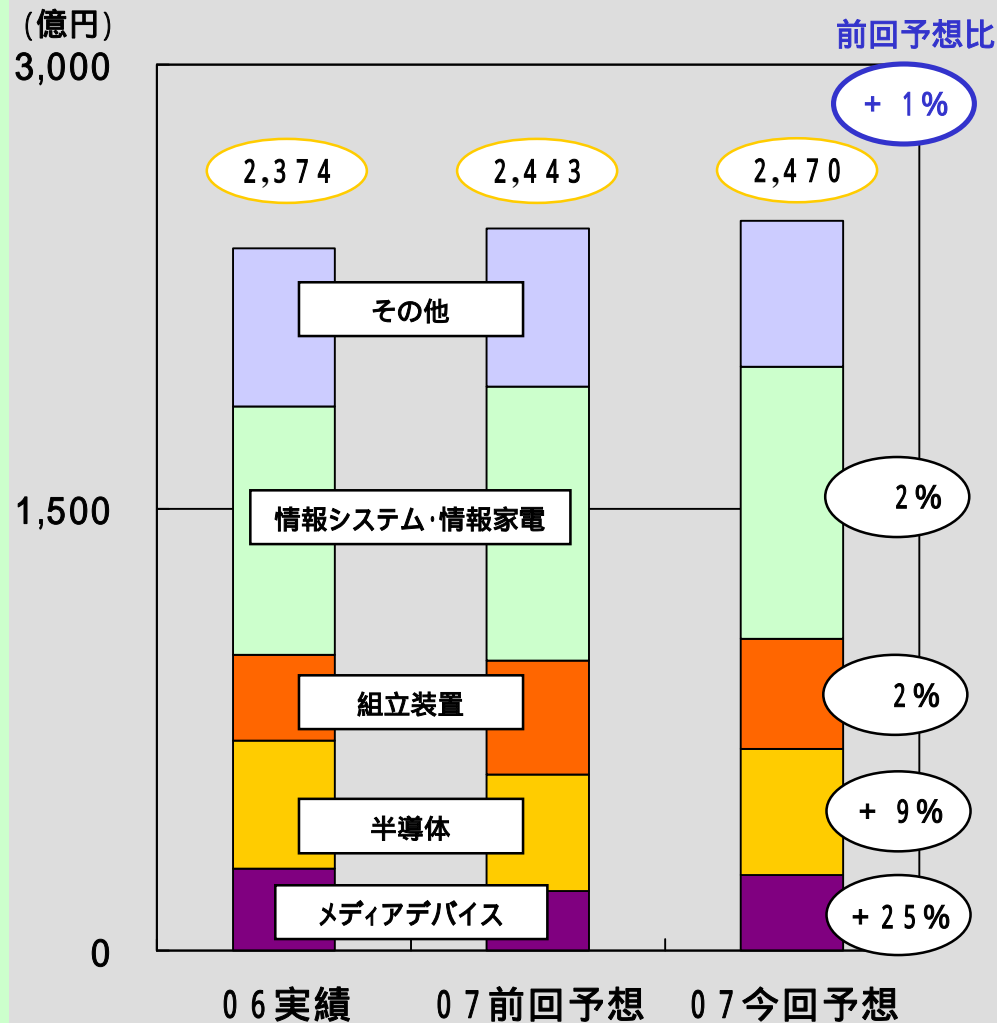
Roche / HITACHI cobas 6000 analyzer series

### 【医用関連事業 今後の取り組み】

1. 欧米市場  
新型生化学・免疫分析装置の販売好調に伴う増産体制の継続
2. 国内市場  
リモートサポートサービス導入に伴う付加価値の提供により生化学分析装置の販売回復
3. アジア市場  
新型生化学分析装置の投入と装置・試薬のシステム販売の強化
4. 栄研化学(株)とのアライアンス  
遺伝子検査事業の開発推進

# セグメント別業績予想(情報エレクトロニクス)

売上高



(注) 前回予想は、2007年4月の決算発表時の見通し

## 【対前回予想比 増減説明】

情報システム・情報家電

- ・欧州向けブロードバンド関連部品等が減少

組立装置

- ・自動車部品組付装置は増加したが、有機EL製造装置・チップマウンタ等が減少

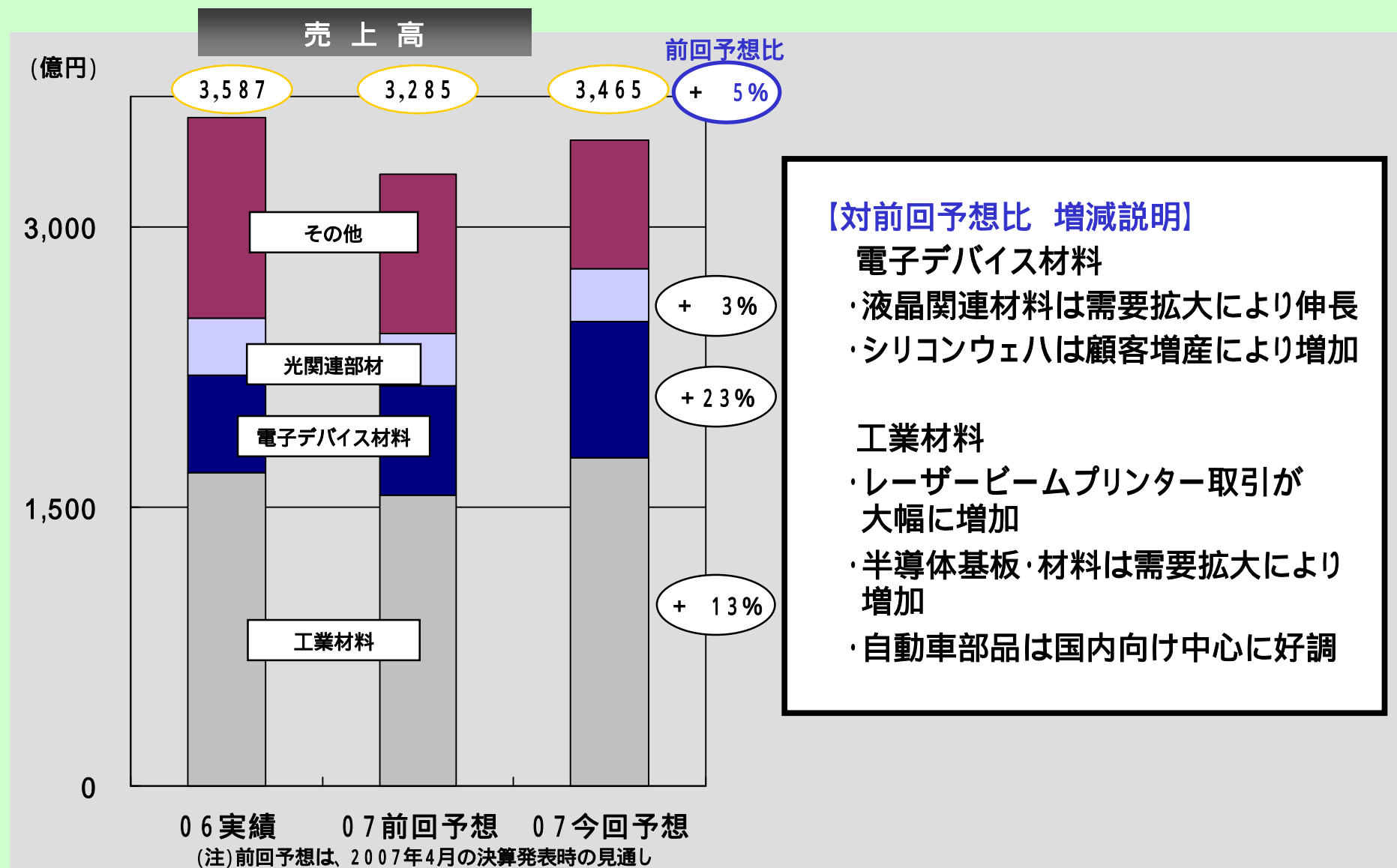
半導体

- ・FPD用半導体デバイスが増加

メディアデバイス

- ・携帯電話用LCD関連部品等が増加

# セグメント別業績予想(先端産業部材)



## 設備投資の状況

### 液晶G10ガラス基板対応クリーンルーム建設(07年4月竣工)



所在地 : 当社埼玉事業所内  
延べ床面積 : 16,419 m<sup>2</sup>  
総投資額 : 約25億円  
生産能力 : 3m×3.5mサイズの  
基板に対応

### チップマウンタ開発・生産一貫工場建設(08年2月竣工予定)

所在地 : 埼玉県熊谷市  
延べ床面積 : 17,500 m<sup>2</sup>  
総投資額 : 約35億円  
生産能力 : 年間1,200台  
目標シェア : 10年度30%



新高速モジュラーマウンタ  
GXH-3



## 設備投資の状況

### 那珂事業所生産能力増強

(07年12月着工、13年3月完成予定)

現在



12年度末



\*1:中2階を含め3階建ての規模

所在地 : 当社那珂事業所内  
 総投資額 : 約80億円  
 (07~12年度)

目的 : BCP構築と供給者責任の遂行  
 生産最適化  
 内容 : 新棟2棟建設、製造レイアウト変更



## 参考: データ集

---

# 四半期決算の推移

(億円)

	06年1Q	06年2Q	06年3Q	06年4Q	07年1Q	07年2Q
売 上 高	2,226	2,467	2,339	2,484	2,251	2,621
営 業 利 益	88	121	108	134	87	146
経 常 利 益	98	124	107	114	91	147
当 期 利 益	59	72	65	65	57	90

## 【セグメント別売上高】

	06年1Q	06年2Q	06年3Q	06年4Q	07年1Q	07年2Q
電子デバイスシステム	571	662	628	760	635	766
ライフサイエンス	213	239	217	265	196	243
情報エレクトロニクス	583	633	576	583	546	700
先端産業部材	859	933	919	876	874	913

# 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	06年度 中間	07年度 中間	前年 同期比	06年度 実績	07年度 予想	前年度比
設備投資額	34	47	+40%	106	115	+8%
減価償却費	35	42	+18%	76	97	+27%
研究開発費	94	101	+7%	191	224	+17%

< 増減理由 > (2006年度      2007年度)

【設備投資額】 9億円増加

・チップマウンタ新工場建設など

【研究開発費】 33億円増加

・電子デバイスシステム、ライフサイエンスの要素技術開発など

(注) 設備投資額は取得ベースにて記載

# 主要製品群別売上高の動向

(億円)

	06年度中間	07年度中間	前年同期比	06年度実績	07年度予想	前年度比
【電子デバイスシステム】	1,233	1,400	+14%	2,622	2,585	1%
プロセス装置	237	329	+39%	627	602	4%
評価・解析装置	434	446	+3%	877	969	+10%
液晶関連製造装置	297	317	+7%	515	484	6%
HDD関連製造装置	119	97	18%	247	147	40%
その他	146	211	+45%	356	383	+8%
【ライフサイエンス】	451	440	3%	933	880	6%
バイオ関連機器	112	107	4%	232	231	0%
医用関連装置	267	275	+3%	563	557	1%
その他	72	58	19%	138	92	33%
【情報エレクトロニクス】	1,216	1,245	+2%	2,374	2,470	+4%
情報システム・情報家電*	410	512	+25%	837	919	+10%
組立装置	172	183	+6%	292	375	+28%
半導体	228	200	12%	432	427	1%
メディアデバイス*	166	156	6%	279	256	8%
その他*	240	194	19%	534	493	8%
【先端産業部材】	1,792	1,787	0%	3,587	3,465	3%
工業材料	836	899	+8%	1,680	1,765	+5%
電子デバイス材料	253	367	+45%	524	725	+38%
光関連部材	147	150	2%	309	289	6%
その他	556	371	33%	1,074	686	36%

### < 資料取り扱い上の注意 >

本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結です。

数値情報は、億円未満を四捨五入しています。

増減率は、基本的に円単位で計算しています。

本プレゼンテーションで述べられている将来の当社業績に関する予想は、現時点で知りうる情報をもとに策定されたものです。当社の参画する産業界はテクノロジーの変化が速く、競争の激しい産業です。また、世界経済、半導体市況、為替相場など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

従って、今後、当社の業績が本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおきください。但し、大きな変動がある場合は、証券取引所の適時開示規則及び当社の自発的判断等に基づき、その都度公表していく所存です。

以 上